事例No.	2780
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	志比北振興連絡協議会

事例区分	地域活性化

タグ	・交通事業 ・地域運営組織 ・関係人口

事例種類	交通事業

事例内容・タイトル

助け合いの精神で運行する「近助タクシー」の取組み

出典

令和４年度ふるさとづくり大賞事例集



助け合いの精神で運行する「近助タクシー」の取組み

志比北振興連絡協議会（しひきたしんこうれんらくきょうぎかい）

DATA

事　例　名：助け合いの精神で運行する「近助タクシー」の取組み

所　在　地：福井県吉田郡永平寺町吉波6-103-3

取組の概要

永平寺町の志比北地区は、人口747人、世帯数253、高齢化率42.1％と町内でも少子高齢化が顕著な地区。地方においても核家族化が進み、高齢者世帯の移動手段の確保が地域課題となっている。単なる移動手段の提供に留まらず、地域住民がドライバーとなり主体的に運用することで、地域活性化のツールとなることを目指し「近助タクシー」の運行を開始した。

評価された点

- 相互支援の「近助タクシー」から、タクシーによる弁当の貨客混載やゆうパックの宅配まで実験的に広げている点を評価。
- コロナや若者の移住により過疎地では、利用客減少のためバスや電車が廃線になっていく現状の中で、新しい交通手段を作り出したことで住民たちの強い連携性を感じた。また、本来の移動手段だけではなく横展開の幅広さにも期待したい。
- 地域課題に対して独自に着眼し、取り組みを展開しており、地域コミュニティの創出ができている。新しい公共交通になりつつあるとのことで、他の地域の先進事例としても波及していくことに期待。

取組のプロセス

取組を実施するに至った要因・背景や地域課題
その取組を実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ 2018年
高齢者の移動が地域課題であった志比北地区に、トヨタ自動車（株）からデマンドタクシーの事例紹介があった。

2019年～

・「永平寺町MaaS会議」を開催し、地域の移動課について協議。その中から近助タクシーの取り組みが決まる。

・トヨタ自動車販売店の支援。

近助タクシー試走開始

・福井県トヨタ自動車販売店各社から車両の支援を受け、試験走行を開始。
・開始半年間の1日当たり利用者は4.0人であったが、周知が進み次の半年間では10.2人に増加。



2020年

・住民アンケートや地域説明会を重ね、利用方法の改善を図る。

弁当の貨客混載によるコロナ支援

・コロナ禍における飲食店支援の取り組み。
・14日間で745個の弁当を配達。
・実用化後の利用者が1日当たり20.0人に増加。



2021年

近助タクシー実用化
2020年10月
・コロナ禍における飲食店支援の取り組み。
・14日間で745個の弁当を配達。

・日本郵便との共同事業。

日本郵便と貨客混載によるゆうパックの宅配

・国内初の実証。
・地域配送事業者への支援。
・人＋荷物の輸送による収益性の向上を検証。



2021年～

・志比北地区の成果を見て、町内2地区が近助タクシーの取り組みを開始。

・損害保険ジャパンとの共同事業。

近助タクシーの安全性の検証と横展開モデルの構築

・通信型ドラレコによる運行データの採取。
・ドライブシミュレータを用いた安全運転研修。
・リスクアセスメントの実施。
・保険制度の検討。
・事例発表会の開催。





2022年～

永平寺町社会福祉協議会と連携した地域見守り活動の実施

・SOSネットワーク。
・ボランティア研修。



今後の展望
人と人とのつながりに専念できるよう、必要なシステムや技術を積極的に導入する。
特定の人に負担がかかりすぎない持続可能な組織を目指す。

受賞者のコメント

近くのみんなで助け合いながら運行するのが近助タクシーです。地元住民がドライバーをしているということもあり、車内での会話も弾みます。明日が高校受験という中学生が降りるときに、相乗りしていたおばあちゃんが「受験、頑張ってね」と声をかけます。「近助タクシー家族だね」と、嬉しそうに笑います。会話で気持ちが通じ、幸せを感じる幸せタクシーです。今回の受賞を地域のみんなと喜び合い、近助タクシーの取り組みを通じた地域づくりに励んでいきます。